

す

く

す

く

76号



東京都済生会中央病院附属乳児院 2021年度 第3号 2021. 10. 1 発行

東京都済生会中央病院附属乳児院 院長 小寺 政明

猛暑も過ぎ、秋の気配が感じられるようになりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。子どもたちは、夏の暑さの中、新乳児院で初めての水遊びができました。幸い天候にも恵まれ、大変嬉しそうに水遊びを楽しんでいました。

私は、令和元年9月より当乳児院に常勤しています理学療法士です。

常勤の理学療法士は、全国の乳児院でも珍しく、東京都では当乳児院だけです。理学療法士の役割は、子どもたちを観察、分析し、発達障害や身体の異常を発見することです。子どもの発達を阻害する要因を、早期に発見し、その発達段階や身体異常に応じた訓練や援助をすることで、発達を促進することを目指して頑張っております。

日頃から乳児院にご支援、ご援助をいただきまして深く感謝いたします。今後とも変わらぬご支援をいただき、温かく見守っていただきたくお願いいたします。

理学療法士 新井 保久



### 理 念

「済生の精神」に基づいた思いやりのある養育の提供を通じて社会に貢献します。  
(「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉を差し伸べることです)

### 基 本 方 針

「子どもニーズ 子どもファースト」

私たちは、常に子どものことを第一に考え、子どもの目線に立ち、子どもの気持ちの代弁者として実践し、一人ひとりの子どもの最善の利益を追求していきます。

1. 子どもが安心できる環境の中で、個性を尊重し、愛情を注いで養育します。
2. 愛着関係を大切にし、情緒豊かな子どもに育てていきます。
3. 感動や成功体験を通し、子どもの自立心を養っていきます。
4. 子どもの成長の喜びを保護者と共有し、親子関係を大切にしながら養育します。
5. 乳児院職員として、向上心や探究心を持ち、人間性・専門性を高めていきます。





# 夏祭り



7月29日、夏祭りが行われました。

はっぴと豆絞姿で準備万端の子ども達。居室の扉を開けると、お神輿が待っていました。「わっしょい！わっしょい！」の掛け声と共に会場へ到着すると、いつもと違う雰囲気、目をキラキラさせながら職員へ話しかける子、キョロキョロあたりを見渡してちょっぴり緊張気味の子など、反応は様々。はっぴを着た屋台店員に扮した職員とやり取りをしながら、お菓子屋さん・洋服屋さん・おもちゃ屋さんを個々のペースで楽しみました。屋台で購入した手作りチョコバナナも好評でした。

ビニールリュックいっぱい購入した物を詰め込んで、ニコニコしながらそれぞれの居室へ帰っていく子ども達の姿が印象的でした。

保育士 前田 朋子



# 食育月間

食育基本法が2005年6月に制定されたことにちなみ、6月は食育月間として全国各地で食育イベントが開催されています。当乳児院では、「いのちを大切に育み、感謝して味わう」を目標に、子どもたちがミニトマトとカブを育てました。

毎日お散歩に行く前にお水をあげて、成長を楽しみにしていること約2ヶ月。真っ赤に実ったトマトと、葉が大きく成長したカブを収穫できる日がやってきました。絵本のように「おおきなかぶ」にはなりませんが、おやつに美味しいスープとしていただきました。

自分たちで育てた初めての野菜。葉や実を見つめる表情から、自然と愛着が湧いている様子が伝わってきました。大切ないのちにありがとう。

食育委員会 保育士 田中 英美



6月  
種まき  
水やり



8月  
収穫



# 日常の様子

乳児室と幼児室(Aホーム・Bホーム)の子どもたちの日々のエピソードをお届けします。

## 乳児室

水遊びが気持ち良い季節になり、乳児室の月齢が大きい赤ちゃんたちも、テラスで水遊びを行いました。水の入った桶に両手をいれて元気よくパチャパチャと弾いたり、じょうろから出る雨のような水をじっと見つめたり、水を掴むように、にぎにぎと手を動かしたりと、それぞれの楽しみ方で水遊びを満喫していました。



## Aホーム



Aちゃんは昨年水遊びが苦手な様子でしたが、今年は自分から流れる水に手を伸ばして冷たさを感じ、玩具のじょうろで水をすくって流し楽しそうに遊んでいました。

お友達と一緒に活動しながら、自ら色々なことに挑戦することで、Aちゃんの興味の広がりを感じられる場面でした。



## Bホーム



Bちゃんは、1歳のお誕生日を迎える前に1人で歩けるようになりました。初めは1歩2歩足を前に出すところからでしたが、数日後には10歩以上すたすたと歩けるようになっていました。

ニコニコしながら歩くBちゃんの姿を見ていると大人も嬉しい気持ちになります。



## 心理士だより～ヒトは助け合って子育てする～

ヒトの赤ちゃんは、とても未熟な状態で生まれてきます。生まれてすぐに立ったり、歩いたり、自分でおっぱいをつかんだりする動物もいるのに、ヒトがそれらができるようになるのは、何ヶ月もたってから。ゴリラの赤ちゃんは体重 2 キログラムほど、パンダは 100～200 グラム、成獣が 100 キロ、200 キロあるのを考えると、ヒトは約 3 キロというとても重い赤ちゃんを育てる大変さがある、というのがわかります。

未熟で重い赤ちゃんを育てるには、仲間同士の協力、支え合い、助け合いがどうしても必要です。その中でヒト特有の社会性、つまりかかわりの中で生きる力も育てられることになるのです。

一昔前は、親戚も多く、向こう三軒両隣の老若男女が皆で子どもを育てる雰囲気は自然とあったように思います。現代の都市部での暮らしは、出身地も色々で身内が遠かったり、ご近所のお顔を知らなかったり、引越しが多かったりし、付き合いがあっさりで楽なこともあります。孤立にもつながります。子どもたちを友人知人に任せることも、何かあった時のことを考えると、お互い、ためらってしまうようになりました。

そんな中で子育て支援のサービスが、どんどん充実してきました。子どもをあずけることや、子育てや家事のお手伝いを頼めるなど、内容は地域によって色々です。子どもたちと一緒に育てる、そのメンバーが一昔前と少し違いますが、大人も子どもも育ち合うチャンスとして、上手に活用できればと思います。

臨床心理士 柴田 薫

### 夏の思い出



頂いたスイカをみんなで美味しく食べました!



天気がいい日は水遊びを楽しみました!

**【0～3 歳児の育児にお困りの方へ】**当院では育児相談を平日 9～16 時に受け付けています。

詳しくは下記までご連絡ください。Tel 03-3451-8289(直通) 担当 小泉看護師長代理

**【寄付金について】**当院では子どもたちの養育環境整備のため寄付金を募っています。

詳しくは下記までご連絡ください。Tel 03-3451-8289(直通) 担当 事務 竹田

#### 【編集後記】

コロナ禍で自粛が続きますが、子どもたちとの生活を通して夏を満喫することができました◎

「すくすく 第 76 号」2021. 10.1 発行  
発行人/小寺 政明 編集委員/小泉 菜穂子  
赤穂 真由美 宮野 由貴 栗野 桃子